

総合学習における森林環境教育の進め方

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

齋藤 克則

1 はじめに

当ふれあいセンターは平成17年度からの森林環境教育の進め方として、毎年4月～5月に管内の各市町村の小中学校校長会で当ふれあいセンターのPRをしながら、森林環境教育について要望のあった学校に対して出前森林教室を行っています。

今年度は、併せて森林環境教育検討会報告書を配布・説明しながら実施した総合学習における森林環境教育の進め方について報告します。

2 小中学校へのPR

今年度は、小中学校へのPRとして図-1の考えを元にセンターが実施している先生への研修会「森林ふれあい講座」への参加要請、また、センターで作成しているポケットガイドを希望のある学校に配布し、意見等を聞きながら、より使い易いガイドブックとしてリニューアルを行っております。

さらに、各種森林環境教育の支援として、実施希望のあった学校に対し森林教室の開催と関係団体等と連携した森林教室等の支援についてPRしております。



図 - 1 小中学校へのPR

1) 森林環境教育検討会報告書

今回配布した報告書は、平成18年度に、北海道教育大釧路校の先生や釧路市元教育長、釧路市こども遊学館館長、更に学校の先生が作っている教科ごとの教育研究会からそれぞれメンバーを出していただき8名で検討を行い、作成した物で

総合学習参考資料として「地球温暖化と森林について」として10時間のカリキュラムが作成されており、10時間のうち学校で7時間の地球温暖化について基礎知識を先生達が授業を行い、残りの3時間について当ふれあいセンター職員が地球温暖化と森林との関係を出前森林教室ということで各学校に出向き授業を行う内容となっております。

一部を紹介すると一時間目の内容ですが、「児童の活動と考え」～として「海面上昇と地球温暖化」について学習するようになっており、さらに児童の活動に併せ、～先生達への「学習の支援」に分かれております。

この学習の支援については、それぞれ資料等があり授業の参考として活用出来る物と考えております。写真1、2は1時間目の海面上昇についての資料で、ツバル国の現況写真で、このような写真等を使いながら先生達が授業を進められるよ



	児童の活動と考え
1時間	●海面上昇(日本沿岸、ツバル国の現況)氷河の消失(ヒマラヤ氷河の現況)異常気象(佐呂間の竜巻被害)等の写真をもとに、地球温暖化とのかかわりについて話し合う。
	学習の支援
1時間	◆起きている現象や影響について興味を持ち、これまでの学習や自分自身の生活体験などを想起しながら進んで話し合おうとしているか、チェックする。 資料1 日本沿岸および近海の海面水位 資料2 海面上昇(ツバル国の現況)

うに、画像データとして準備しております。



写真1 大潮の満潮時前の様子



写真2 大潮の満潮時の様子

2) 「森林ふれあい講座」の実施

平成18年度から、新たな取り組みとして、教職員を対象に実施している物で、今年度は、4名という少ない参加人数でしたが、ふれあいセンターで実施している内容のPRその後、炭焼き体験、望楼からの黄葉のパイロットフォレストを眺望し、約1日様々な体験をしてもらいました。



写真3 炭焼き体験



写真4

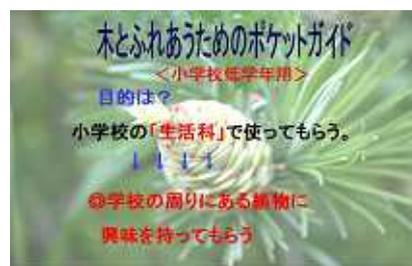
望楼から見た別寒辺牛湿原

このパイロットフォレストは標茶町と厚岸町にまたがる国有林で、約7,000HAのカラマツの造林地があり、別寒辺牛湿原の上流に位置します。

参加した先生たちから、子どもたちに自然とふれあいながら、このような体験を是非、やらせたいという意見が出ると同時に、交通手段等の整備について問題点が有りました。

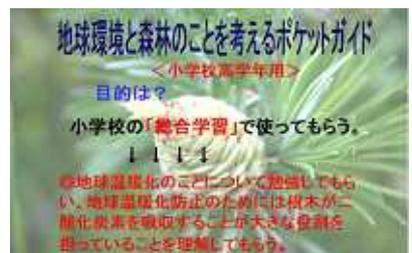
3) ポケットガイド(低・高学年用)リニューアル(配布)

ポケットガイドのリニューアルについては、次の考えを基本に進めております。低学年用のポケットガイドは小学校の「生活科」で使ってもらうことを目的としています。生活科では、身の回りのことを観察したり、何かを体験して「気づく」ということが大きなテーマとなっており、そこで、学校の周りにある植物に興味を持ってもらうことを入口として木の名前を覚えてもらう。



更に、木から森へと興味を広げて、水を通じて森林と自分の生活とのつながりを理解してもらおうよう考えております。

高学年用は、主に小学校の「総合学習」で使ってもらうことを目的としています。総合学習では、自分で調べることが大きなテーマとなっています。そこで、地球温暖化のことを勉強してもらい、地球温暖化防止のためには樹木が二酸化炭素を吸収することが大きな役割を担っていることを理解してもらおう。その上で、学校の周りにある樹木に興味を持ってもらい、その名前を覚えてもらい、水と森の関係から森林の水源かん養機能についても理解してもらおうよう考えています。



4) 各種森林環境教育の支援(活動事例)

森林環境教育検討会報告書を使った森林環境教育

釧路市立鶴野小学校では、先ほど紹介した森林環境教育検討会報告書にそった内容で、6年生を対象として行っています。

「総合学習」の時間の中で、先生達は、報告書の総合学習参考資料をもとに、写真5のように「地球温暖化について」二酸化炭素を減らすには?を題材に授業を行い、その後、当センター職員により、校庭にある樹木の名前、測樹による樹木の炭素固定量の算出などを行いました。



写真5 二酸化炭素を減らすには?



写真6 測樹(輪尺)

校庭にある樹木を対象という形でしたが少なく、内容的には、満足では有りませんが子どもたちは、普段見ている樹木について何も知らなかったと、みんな熱心に行っていました。今後、他の学校に対するPRとして、改善点等検討しております。



写真7 炭素固定量算出

関係団体と連携した森林環境教育

釧路市立清明小学校は「学校環境緑化モデル事業」の中でモデル校として選ばれたことから、釧路支庁の要請で、当センターが森林環境教育、木工教室を実施しました。3年生~5年生を対象に、3年生は森林教室と樹名



写真9 巣箱作成

板作成、4年生は森林教室と巣箱作成、5年生は森林教室と測樹(Co2固定量の算出)をそれぞれ実施し、

当モデル事業の記念式典では、全校生徒に当センター所長が「森林のはたらき」と題して講話し、一連の事業の締めくくりとして3年、4年生にそれぞれ作成した樹名板

と巣箱を校庭周辺の学校林の樹木に設置しました。



写真8 樹名板作成



写真10 「森林のはたらき」



写真 1 1 樹名板設置



写真 1 2 巣箱設置

釧路支庁とは、これまでグリーン倶楽部等において連携を図っているが、今後も更に、情報交換等を行いながら連携を深めていく考えです。

3 今後の森林環境教育の進め方

当ふれあいセンターの平成19年度におけるおもな森林環境教育についての活動を報告して来ましたが、平成19年度の森林教室の実施は、延べ22回、約1,800人に上りました。

平成18年度は、同じ学校での継続した森林教室が少なかったのに対して、19年度は、樹木観察、木工教室、測樹等、数日間に分けた内容での出前森林教室を少しずつですが行う事が出来ました。

来年度は、これまでの活動を継続するとともに、自然再生事業地やパイロットフォレストなどの国有林を森林環境教育のフィールドとして活用するため、森林環境教育検討会報告書の内容を検討しながら、地元小中学校と連携するための具体的なプログラム（教材）を作成する予定です。

また、森林の持つ公益的な機能等の学習を森林環境教育に取り入れるために、現在、小学生を対象とした具体的なプログラム（活動シート）の作成に向けて関係教育委員会と打合せを実施しており、来年度に向けて取りまとめて行く考えです。